



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

子宮頸がんワクチン

サバリックスVSガーダシル

子宮頸がんは毎年約90000人の女性が罹り、20〜30代の若い世代に増えています。約35000人が亡くなっていますが、欧米に比べ健診受診率が著しく低い状況です。ほとんどの子宮頸がんは性交渉によるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因であり、ワクチンが有効です。日本では「サバリックス」と「ガーダシル」から選択できます。どちらも公費で接種できますが、途中から他のワクチンに変更できません。それでは比較しましょう。

予防できるHPVの型

HPVには数十種類の型が存在します。サバリックスは高リスク型と呼ばれる16型と18型（子宮頸がんのうち20代の90%、30代の75・9%に関連）に効く2価のワクチンです。ガーダシルはそれらに加え、低リス

ク型と呼ばれる6型と11型（尖圭コンジローマなどの原因）も予防できる4価のワクチンですが、子宮頸がん予防の点では大差ありません。

接種間隔

サバリックスは、初回（10歳以上）を0カ月として1カ月後、6カ月後の計3回接種します。ガーダシルは初回（9歳以上）を0カ月として2カ月後、6カ月後の計3回接種します。

予防効果の持続

インフルエンザワクチンの効果が半年ほどで切れるように、ワクチン接種で得た抗体は徐々に減少します。再接種は概ね20年後と推測されていますが、その頃にはもっと良いワクチンが打てるかもしれません。

カットオフ値

「カットオフ値」とは、HPV感染を防ぐ最低限の抗体価（抗体の量）です。まだ不明ですが、この先、「HPV感染を防ぐ抗体価」と「子宮頸がんを防ぐ抗体価」の両面で研

究が進めば優劣がはっきりするでしょう。

副作用

痛み・腫れなどはサバリックスが多いですが、個人差などもあり優劣の基準にはならないかもしれません。一方でガーダシルは、米国のワクチン機関やインドの研究プログラムにおいて死亡例の報告があり、今後の研究が気になります。

結局のところ両者はほぼ同質と思われませんが、高リスク型HPVは15種類程度あり、予防できるのが16型と18型だけでは子宮頸がんの約65%にすぎず、ワクチンとして十分という見方もあります。追加接種が必要、検診の代わりにはならない、既に感染したHPVには無効、そして子宮頸がん治療薬ではありません。ワクチン接種と同時に、定期的な子宮頸がん検診も受けましょう。

（長田区 ふれあい薬局 板宿

原 克樹）